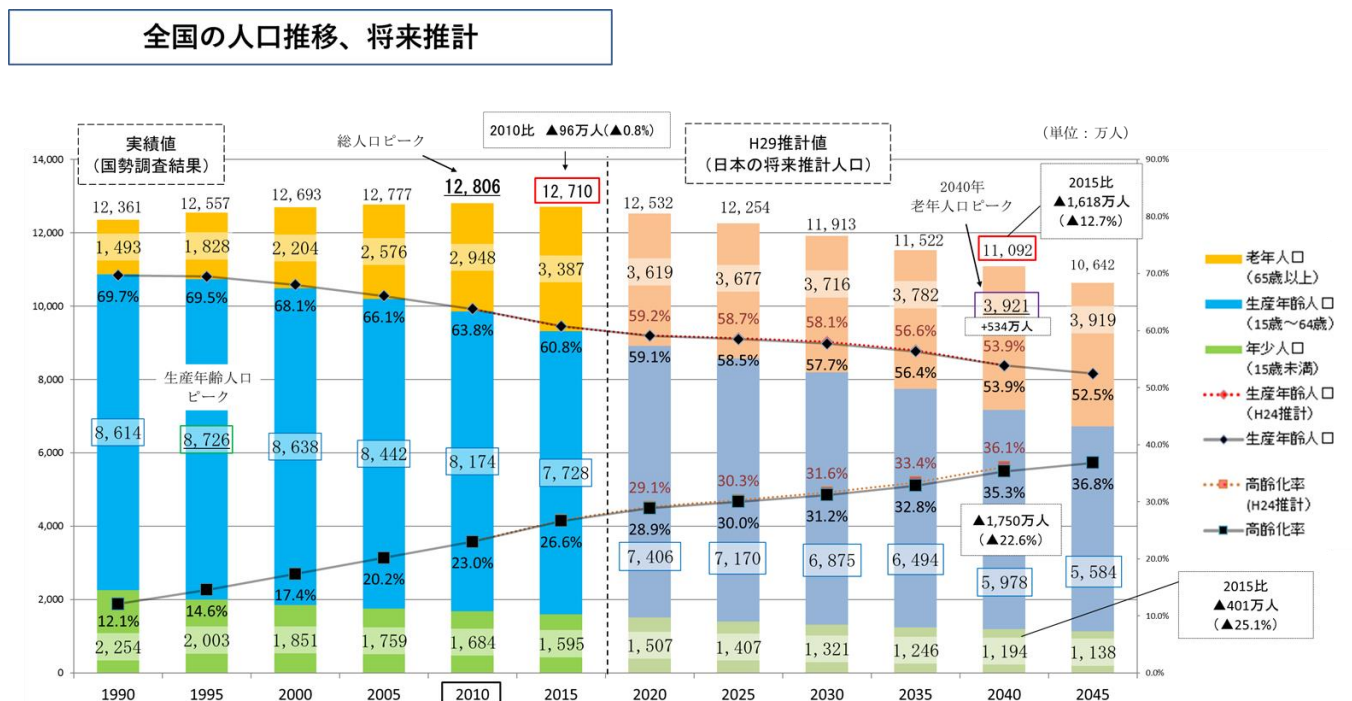


II 2040年頃を見据えた対応の必要性

- 全国の人口推移と長期的な見通しは、2010年の1億2,806万人をピークに減少し始め、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」によれば、2040年には1億1,092万人となると予測されている。
- また生産年齢人口は、出生者数の減少に伴い1995年の8,726万人をピークに減少し、2040年には5,978万人（全体の53.9%）まで減少すると予測されている。
- 一方、高齢化は急速に進行、2015年に3,387万人であった老年人口（65歳以上）は、2040年には、3,921万人（全体の35.3%）となり、ピークを迎える見込まれている。
- 国や各自治体は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、少子化対策や移住促進対策を進めているところであるが、2016年に1.44であった合計特殊出生率が、2040年に人口置換水準の2.07まで上昇したとしても、その後長年にわたり人口減少は続く見込みである。



（出典）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」
「日本の地域別将来推計人口」
総務省統計局「国勢調査」

- このような状況から既に国においては、人口減少及び高齢化社会が我が国の様々な分野に影響を及ぼす恐れがあることを想定し、社会保障や働き方、教育、産業振興などの様々な分野で、対策について議論が開始されているところである。

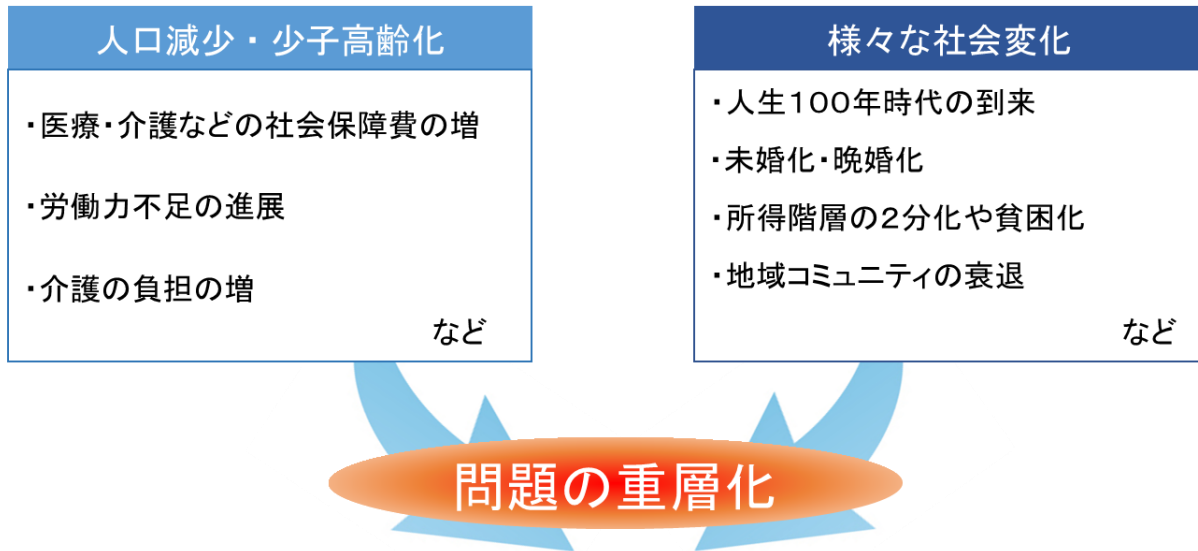
2040年頃に向けた国における検討の状況

2040年頃に、わが国はこれまで経験したことのない重大な危機にさらされる恐れがあり、既に国においては、社会保障や働き方、教育、産業振興などの様々な分野で、対策について議論が開始されている。

＜国における各省庁において、2040年を見据えた対策の検討(一例)＞

総務省	「自治体戦略2040構想研究会」を設置し、様々な分野で起こる課題に対する自治体サービスのあり方を検討
厚労省	「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」を設置し、多様な就労・社会参加の整備、健康寿命の延伸、医療・福祉サービス改革や給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性を検討
経産省	「未来イノベーションWG」を設置し、2040年の将来における日常生活を含めた国民の暮らしの中に、IoT、AI、ロボット等が溶け込んでいる社会システムの実現等を検討
文科省	中央教育審議会において、2040年に向けた高等教育や大学院教育のあるべき姿について議論

- 全国では、2040年頃には急速に進む人口減少やピークを迎える高齢者数、少子化の進展等に伴い、従前から指摘されてきた問題に加え、更に人生100年時代の到来、労働力不足の進行、未婚化・晩婚化といった家族に関わる意識の変化、所得階層の2分化や貧困化、地域コミュニティの衰退など、様々な問題が幾重にも折り重なって深刻化していくと危惧される。
- こうした現象は、医療、介護、社会保障等の制度的問題にとどまらず、個人の雇用・就労や働き方、所得確保等の問題、健康の維持や社会的孤立への対応など、国民・県民の生活に直接的に影響を及ぼすこととなる。
- しかしながら、こうした静かなる有事に対して、県民、市民レベルまでの情報の共有や、危機感の共有は十分に図られていない状況であり、全国よりも早いスピードで人口減少や高齢化が進んでいる本県においては、「今まさにそこにある危機」として認識される必要がある。
また、そのうえで今からしっかりした対応をしていけば、乗り越えられるものであることもまた理解される必要がある。



医療、介護、社会保障等の制度的問題にとどまらず、個人の雇用・就労や働き方、所得確保等の問題、健康の維持や社会的孤立への対応など、国民・県民の生活に直接的に影響を及ぼす。

しかしながら・・・

こうした静かなる有事に対して、県民、市民レベルまでの情報の共有や、危機感の共有は十分に図られていない状況であり、全国よりも速いスピードで人口減少や高齢化が進んでいる長崎県においては、

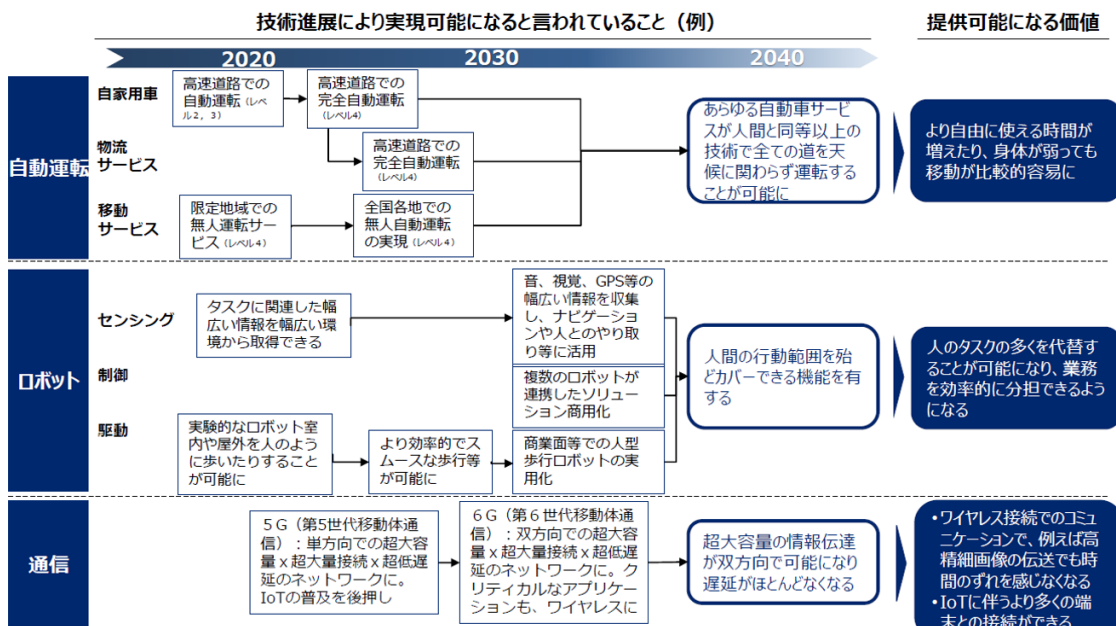
「今まさにそこにある危機」として認識される必要がある。

○ 一方、2040年頃の日本社会は、AIやロボット、IoT、5Gなどの新たな産業技術や情報通信技術の劇的な発展が見込まれる社会でもあり、こうした分野への対応に積極的に取り組むことにより、我が国の西端に位置し、多くの離島・半島を抱える本県が長年背負ってきた地理的、地勢的ハンディをカバーし、新たな産業や社会システムを構築するチャンスになる可能性も有している。

新たな産業技術や情報通信技術の劇的な発展

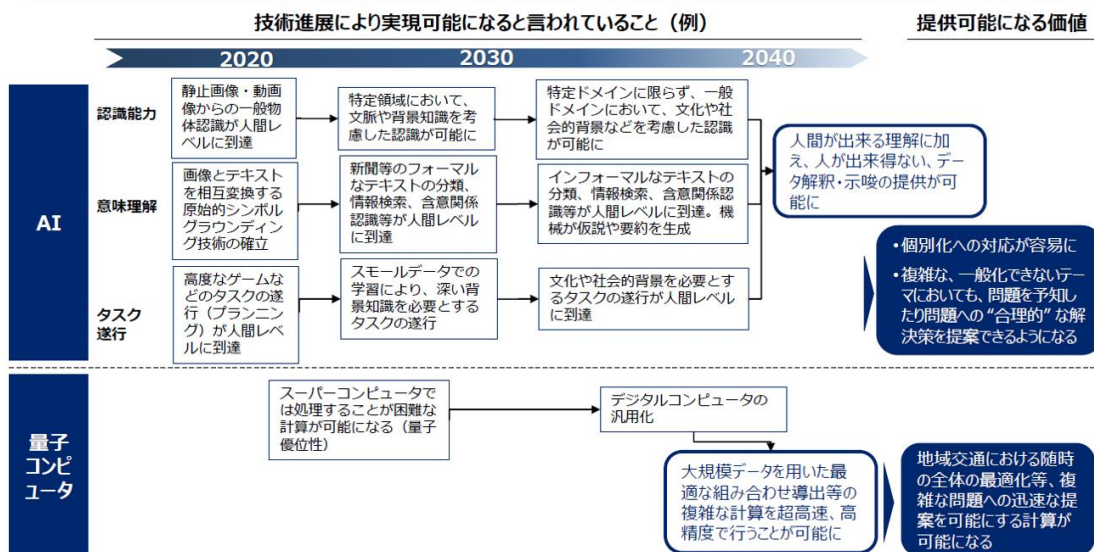
2040年にかけて見込まれる技術の進展（基盤技術）

- ロボット、自動運転等の基盤技術は、2040年に向けて進化していくと考えられる



2040年にかけて見込まれる技術の進展（基盤技術）

- AI、量子コンピュータ等の基盤技術は、2040年に向けて進化していくと考えられる



- このような静かなる有事を乗り越えるためには、将来予想される様々な課題について県や市町が県民・市民に適切な形で情報共有を図り、行政、民間、県民の各々が、迫りくる社会の変化をしっかりと認識した上で、公、共、民、私それぞれの役割分担のもと、今から何をなすべきかを考え、行動につなげることが求められている。
- 例えば、人口減少下の社会では、私と共の部分の役割がこれまでより大きくなり、公はそれを支えていくという役割に変化していくことが考えられる。

静かなる有事に今から備える

将来予想される様々な課題について県や市町が県民・市民に適切な形で情報共有を図り、行政、民間、県民が、迫り来る社会変化をしっかりと認識した上で、公、共、民、私それぞれの役割分担のもと、今から何をすべきかを考え、行動につなげることが求められている

